

# 北海道浮魚ニュース

平成 23(2011)年度 9 号

2011 年 7 月 25 日

道総研 水産研究本部  
中央水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎日本海スルメイカ長期漁況予報発表される。

今年の日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されましたので、北海道に関連する海域の予報文および参考となる図をお知らせします。

なお、この予報は日本海区水産研究所を中心にして日本海側道府県水試が共同で行った日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果に基づいています。詳細な予報文は下記のホームページに掲載されます。

※水産庁 URL : <http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/index.html>

平成 23 年度 第 2 回日本海スルメイカ長期漁況予報

対象期間 : 平成 23 年 8 月～12 月

対象海域 : 日本海

対象魚群 : 主に秋季発生系群、  
後半は冬季発生系群も含む

### 1. 道北・道央海域 (小型いか釣り)

- (1) 来遊量 : 昨年を上回り、近年平均並み。
- (2) 漁期・漁場 : 8 月までは昨年及び近年平均を下回る。
- (3) 魚体の大きさ : 小さい。

### 2. 道南・津軽海域 (小型いか釣り)

- (1) 来遊量 : 昨年並みで、近年平均を下回る
- (2) 漁期・漁場 : 8 月までは昨年および近年平均を下回る。  
11 月～12 月にも漁期のピーク。
- (3) 魚体の大きさ : 小さい。

近年平均 : 最近 5 年間 (2006～2010 年) の平均を示す。

日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果、北海道周辺海域では昨年より、CPUE (釣機 1 台 1 時間あたりの個体数) が高い調査点が多く見られたことから (図 1)、道北・道央海域に来遊する個体数は昨年を上回ると考えられています。一方、魚体は昨年同期よりも小さいと思われれます。

一方、道南海域では、東北海域の調査結果が昨年並みであったことから、昨年並みの来遊と考えられています。

なお、漁期後半についてはまだ、来遊状況や来遊量の変動する可能性があります。

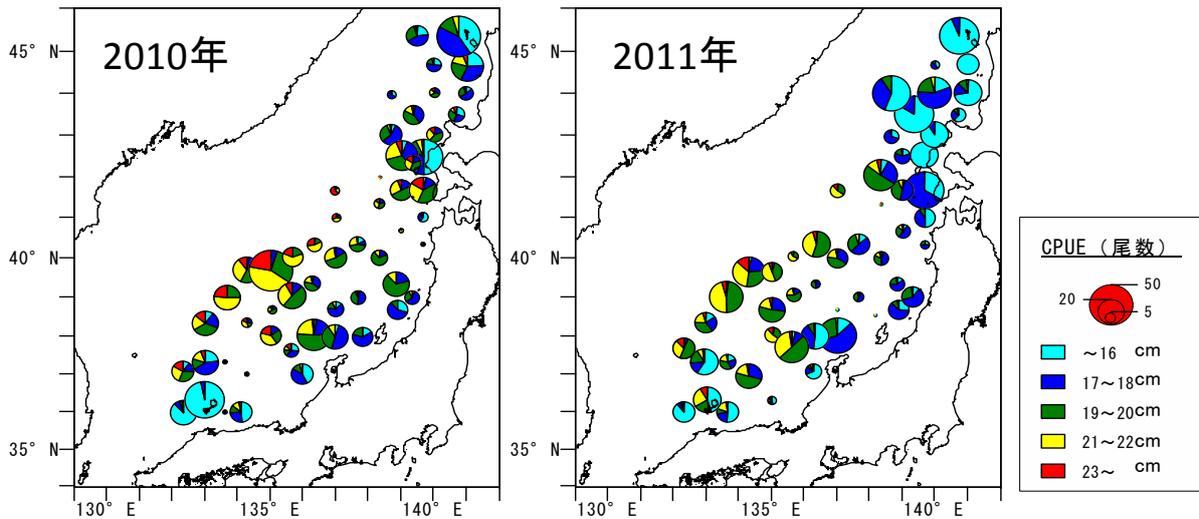


図1 日本海におけるスルメイカの分布状況（6月下旬～7月上旬）  
 ○の面積は各調査点の分布密度の指標となるCPUE（釣機1台1時間あたりの採集  
 個体数）を示し、○中の配色は各外套背長範囲の比率を示す。

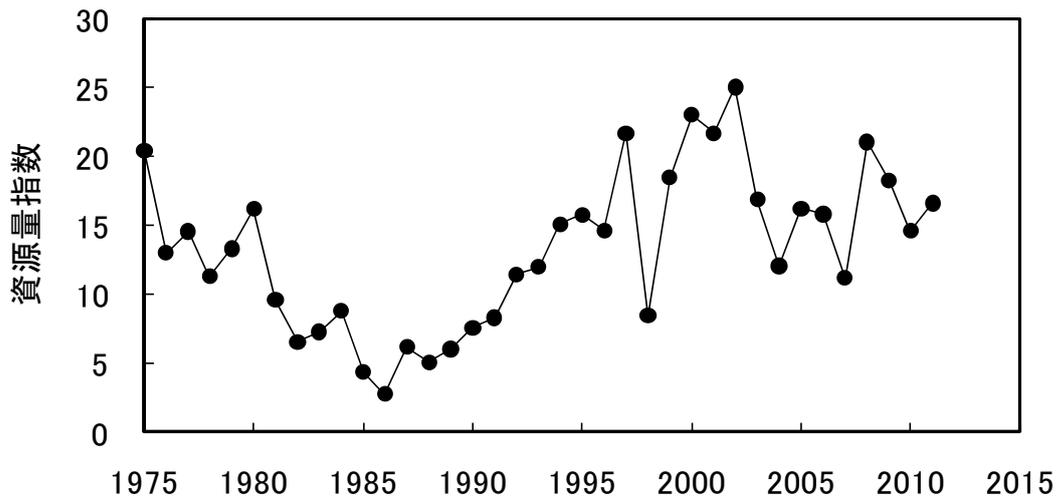


図2 スルメイカの資源量指数の変化（6月下旬～7月上旬）  
 全調査点の平均CPUEを資源量指数としている（2011年は16.59個体）。

太線は近年（2006～2010年）の平均（16.17個体）

注）図の元データは平成23年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報会議資料  
 （独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所取りまとめ）より

（文責：中央水産試験場資源管理部、TEL:0135-23-8707、FAX:0135-23-8709）